

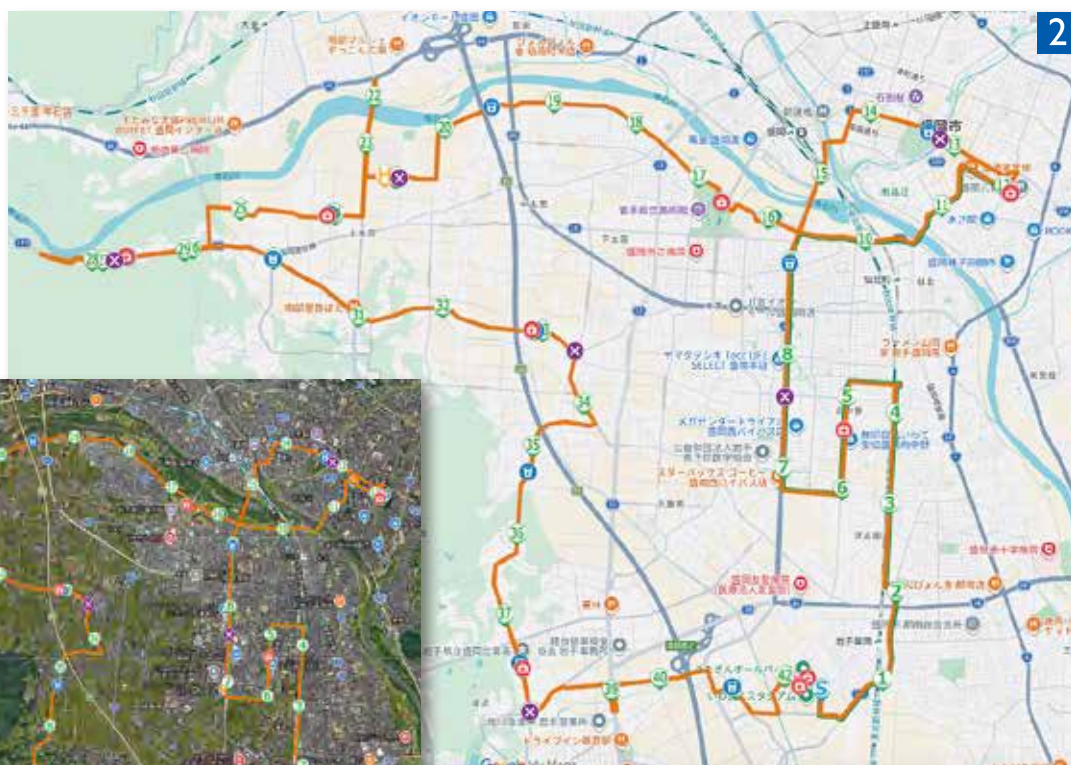


ランナース財団 NEWS

Vol.4



公益財団法人ランナース財団
公式ホームページ



1 のイラストマップは名所の紹介など少ないものの大会全体が一目でわかる。
2 は Google マップに大会コース情報を入れたデジタルマップ。
1 と 2 でコースを示すオレンジのラインを比較すると、イラストマップは実測縮尺ではなく、天地が圧縮されている。
3 は空撮の Google マップ。市街地、田園地帯の区別がすぐわかる。2 と 3 の切り替えはコンピューター、スマホ上で容易にできる。

Imagery © Google, Maxar Technologies
Map data © Google
いわて盛岡シティマラソン HP より

スマホ時代の大会コースマップとは

⑤「正確性」。マップの基本である。一方、イラストマップだからこその制約、課題がある。

①細かな地形を省略し、全体像を一目で伝えられる。
②大会の雰囲気や特色を伝えられる。
③「走るルート」だけでなく地域の名所などを伝えやすい。
④紙媒体のレイアウトに合わせて、横長・縦長など自由に形を変えられるため、チラシやパンフレットのデザインに馴染みやすい。

ランナース財団が提案するのは、イラストマップを残したまま、スマホ時代に対応したデジタルベースのデジタルコースマップを用意することだ。これによって、大会自体と地域の良さを伝えることがより可能になっていくのではないだろうか。

ランナーズ財団が提案するのは、イラストマップを残したまま、スマホ時代に対応したデジタルベースのデジタルコースマップを用意することだ。これによって、大会自体と地域の良さを伝えることがより可能になっていくのではないだろうか。

大会は「スマホ対応の地図」を持つ時代へ ——デジタルコースマップの提案

公益財団法人ランナース財団はさらなるランニングの普及促進を図るため、現在開かれている全国のランニング大会について、コースのデジタルマップ化を進めている。人々の健康増進と地域活性化に大きな役割を担ってきた各地の大会も、コロナがあったにせよ参加者数が過去のピークを超える大会は少ない。今後、大会がさらに多くの人から注目され、参加してもらうには開催地に関心が高まる必要があるが、現状その試みが高いとは言えない。前号の財団ニュースでも触れたように、ベテランランナーほど記録更新や大会への参加意欲は減じていることが明らかになっている。大会の告知、運営などの手法の多くは1990年代後半に開発された方策を踏襲している。その代表の一つが大会のコースマップ紹介で、紙印刷を前提としたイラストコースマップが今でも主流である。誰もがスマホを持つ時代に、どうやって多くの人に大会へ関心を持ってもらうか。今回はコースマップについて検討する。

CONTENTS

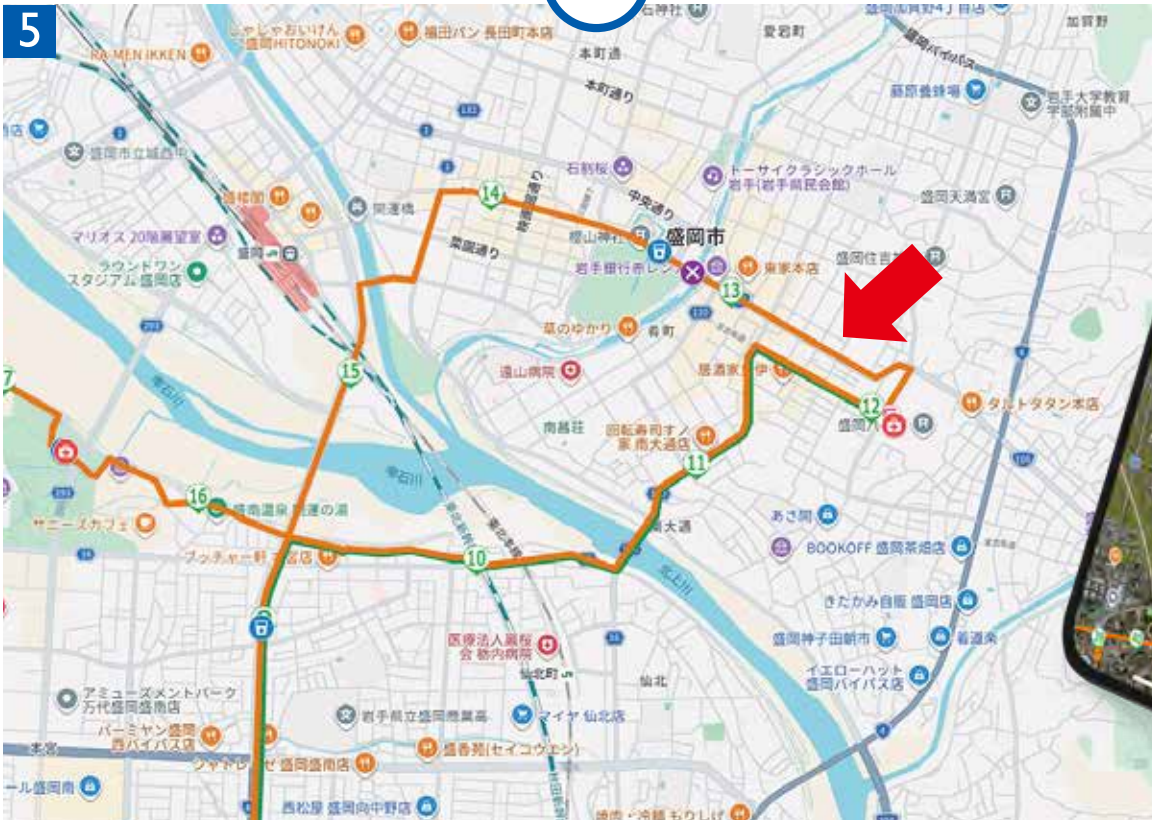
特集「スマホ時代の大会コースマップとは」
» 大会は「スマホ対応の地図」を持つ時代へ
» デジタルコースマップの提案
» 正確性、利便性、位置の共有というメリット
» アイコンを揃えることの意味
» ランナース財団の取り組みと大会への提供

3 計測なしの大会に 4,500 人が集まった！
» 「箱根ランフェス」事例にみるスポーツツーリズム
5 [主催者アンケート結果] 大会継続開催の課題は？
6 市民ランニング史 第 3 回「青梅マラソン」
7 第 36 回ランナース賞 受賞者決定／HOT NEWS

デジタル版コースマップがもたらす 正確性と利便性、位置の共有



デジタルマップの良さは地図 **5** **7** だ。イラストマップ **4** では矢印部分は一本の道の折り返しに見えてしまうが、実際のコース **5** は折り返しではなく別ルートになる。また、**6** のイラストマップではスタート、フィニッシュの場所がよくわからない。最寄りの駅からの動線もわからない。空撮写真を背景にした **7** は、会場の建物の位置関係もよくわかる。



いわて盛岡シティマラソン HP より Imagery © Google, Maxar Technologies / Map data © Google



デジタルマップでは、キロ表示や高低差情報を正確に載せることができる。1kmごとの距離マーカー、累積距離、上り・下りのポイントなどを視覚的に示すことで、ランナーは事前にレース展開をイメージしやすくなる。また、最寄駅から会場までの徒歩ルートや、バス停・駐車場の位置など、アクセス情報を地図上で明示することも容易だ。印刷や既存地図では不可能な「拡大」機能がデジタルマップの最大の特徴だ。

大会にスマホを持参すれば、さらに良さが出る。現在位置との連動だ。スマホ上で自分の位置が常に表示されるので初めての場所でもわかりやすい。

**アイコンを揃えることの意味
― 共通データ作成の試み**

多くの大会では、給水・救護・トイレなどのアイコンが大会ごとにバラバラだ。ある大会では「水」の一字や水滴のマークが給水を示し、別の大会ではコップのマークが使われる。救護所も、赤十字のマークや「救」の字、AEDも兼ねたハート形など、さまざまだ。アイコンの意味を直感的に察することや、大会出場を何度か経験すれば「大会ごとにバラバラ」な現実にも慣れるが、本来「地域によって違う標識」や「施設によってバラバラな誘導サイン」は共通化したほうがわかりやすいのではないか。

現在、ランナース財団では共通のアイコンデータの作成を進めている。給水、救護、トイレ、更衣室、荷物預かり、関門など、主要な情報を示すアイコンを統一すれば、ランナーはどの大会でも同じ記号を見て理解できるようになる。

アイコンを揃えるメリットは、ランナーの理解が早くなることだけではない。ボランティアや警備スタッフにとっても、情報伝達の「共通言語」ができることになる。全国的な標準化が進めば、他地域からの参加者やスタッフにとっても理解が進み、広い意味で大会の安全開催につながるのではないか。

トイレ		距離		関門		救護		AED	給水												
																					
																					
スポンジ		アイス	水被り	給食		駐車場		送迎バス	演奏												
																					

現在使用されているマップアイコンをいくつかピックアップした。それぞれわかりやすい工夫はされているが、関門表示などは一目ではわかりづらい。

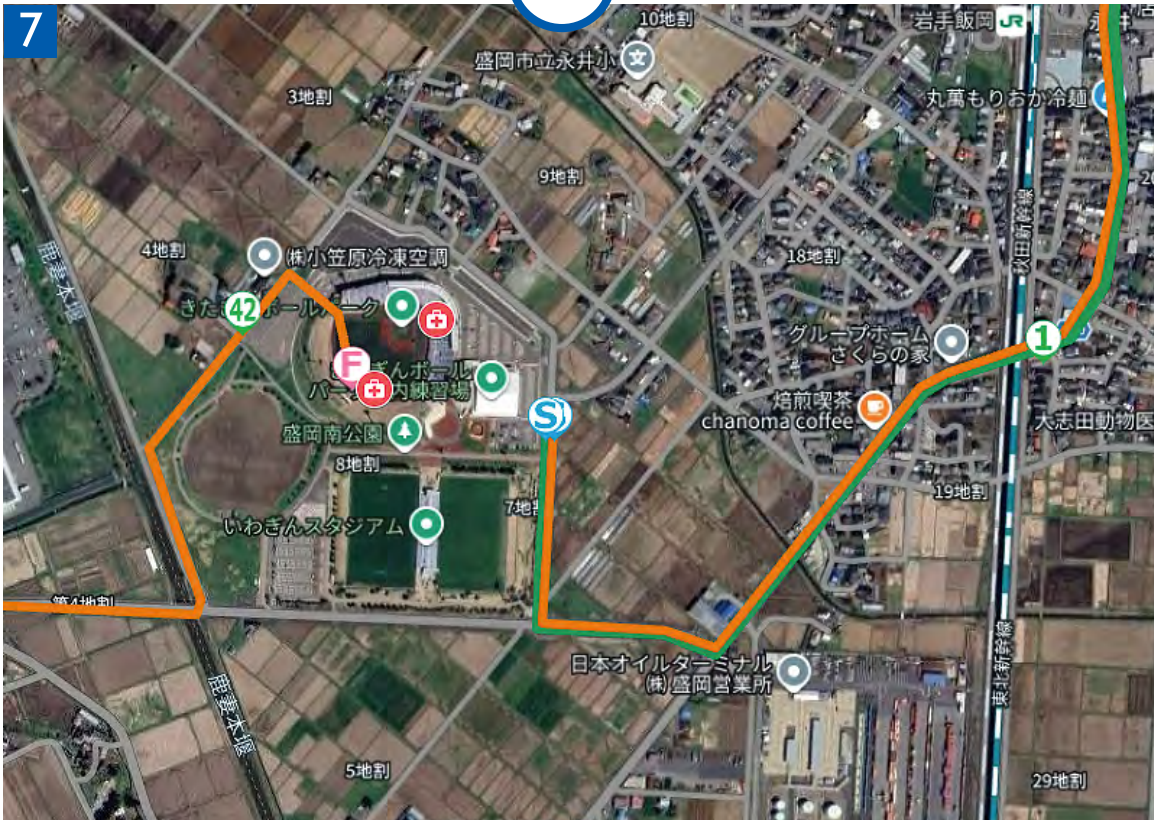
現在使用されているマップアイコンをいくつかピックアップした。それぞれわかりやすい工夫はされているが、関門表示などは一目ではわかりづらい。

デジタルマップづくり協力大会

2026年9月1日現在

- 北海道：オホーツク網走マラソン／ピバオイヘルシーロードレース／くりやまハーフマラソン／旭川ハーフマラソン／日本最北端わっかない平和マラソン／石狩サーモンマラソン／千歳JAL国際マラソン／札幌マラソン／なよろ憲法記念ハーフマラソン／釧路湿原マラソン／サロマ湖100kmウルトラマラソン
- 青森：とわだ駒街道マラソン／弘前・白神アップルマラソン
- 岩手：矢巾町ロードレース／いわて奥州きらめきマラソン／イーハトーブ花巻ハーフマラソン／久慈あまちゃんマラソン／大船渡新春ロードレース／一関国際ハーフマラソン／いわて盛岡シティマラソン
- 宮城：仙台国際ハーフマラソン／カップハーフマラソン／川崎レイクサイドマラソン
- 秋田：北緯40度秋田内陸リゾートカップ100キロチャレンジマラソン／白神山地ブナの森マラソン／田沢湖マラソン／きみまち二ツ井マラソン
- 山形：白鷹若鮎マラソン／天童ラ・フランスマラソン／月山龍神マラソン
- 福島：会津若松市鶴ヶ城ハーフマラソン／さくら湖マラソン／いわきサンシャインマラソン／Jヴィレッジマラソン／野馬追の里健康マラソン
- 茨城：ひたちシーサイドマラソン／つくばマラソン／かすみがうらマラソン／土浦マラソン／坂東市将門ハーフマラソン
- 栃木：さのマラソン／なかがわ清流マラソン
- 群馬：あかぎ大沼・白樺マラソン／ちよだ利根川おもてなしマラソン／伊勢崎シティマラソン／嬬恋高原キャベツマラソン／榛名湖マラソン／はるな梅マラソン／上州太田スパルマラソン／ぐんまマラソン／上州藤岡蚕マラソン
- 埼玉：小江戸川越ハーフマラソン／久喜マラソン／杉戸町新春マラソン／白岡新春マラソン／所沢シティマラソン／上尾シティハーフマラソン／ふじみ野市ロードレース／川口マラソン／ふかやシティハーフマラソン／行田市鉄剣マラソン
- 千葉：香取小江戸マラソン／館山若潮マラソン／旭市飯岡しおさいマラソン／鎌ヶ谷新春マラソン／リバーサイドさかえドラムマラソン／ちばアクアラインマラソン／関東10マイル・10キロロードレース
- 東京：江東シーサイドマラソン／板橋cityマラソン／MINATOシティハーフマラソン／府中多摩川マラソン
- 神奈川：大山登山マラソン／えびな健康マラソン／小田原尊徳マラソン／はだの丹沢水無川マラソン／三浦国際市民マラソン
- 新潟：村上市元旦マラソン／新潟シティマラソン／たいない高原マラソン／見附刈谷田川ハーフマラソン
- 富山：扇状地マラソンINにゅうぜん
- 石川：金沢マラソン／いいとこ白山あさがおマラソン
- 福井：鯖江つつじマラソン／勝山恐竜クロカンマラソン／越前市菊花マラソン／越前大野名水マラソン
- 山梨：つる湧水の里ランフェス／八ヶ岳高原ハーフマラソン／富士吉田火祭りロードレース
- 長野：長野マラソン／飯島米俵マラソン／鉢盛山登山マラソン／諏訪湖マラソン／大町アルプスマラソン／やぶはら高原はくさいマラソン
- 静岡：静岡マラソン／焼津みなとマラソン／浜松シティマラソン／ジュピロ磐田メモリアルマラソン／菊川cityマラソン
- 愛知：いちのみやタワーパークマラソン／小牧シティマラソン／とよね・みどり湖ハーフマラソン／新城マラソン／豊田マラソン／東海ハーフマラソン／にしオマラソン／ちた梅子マラソン
- 岐阜：日本大正村クロスカントリー／恵那峡ハーフマラソン／おおがきマラソン／ひだ金山清流マラソン／長良川ふれあいマラソン／みのかもハーフマラソン／可児シティマラソン／いびがわマラソン
- 三重：伊賀上野シティマラソン／お伊勢さんマラソン／津シティマラソン
- 滋賀：奥びわ湖健康マラソン／東近江市新春マラソン／びわ湖マラソン／あいの土山マラソン
- 京都：京都マラソン／長岡京ガラシャロードレース／八幡市民マラソン
- 大阪：大阪マラソン／ひらかたハーフマラソン／東大阪シティマラソン
- 奈良：奈良マラソン／平城京新春マラソン／飛鳥ハーフマラソン／ごせマラソン
- 兵庫：丹波篠山ABCマラソン／村岡ダブルフルウルトラランニング／世界遺産姫路城マラソン／加東伝の助マラソン／高砂マラソン／麒麟獅子マラソン
- 岡山：おかやまマラソン／山陽女子ロードレース／そうじゃ吉備路マラソン／新見市しんごう湖畔マラソン
- 広島：広島ベイマラソン
- 鳥取：鷺峯山麓ハーフマラソン／南部町緑水湖健康マラソン／鳥取砂丘らっきょう花マラソン
- 島根：まつえレディースハーフマラソン／三瓶高原クロスカントリー
- 山口：サザン・セト大島ロードレース／維新の里 萩城下町マラソン
- 香川：香川丸亀国際ハーフマラソン
- 愛媛：愛媛マラソン／坊ちゃんランランラン／今治里山マラソン／佐田岬マラソン
- 福岡：ゆくはしシーサイドハーフマラソン／茶のくに八女ハーフマラソン／大川木の香マラソン
- 佐賀：さが桜マラソン／歌垣の郷ロードレース／唐津10マイルロードレース／伊万里ハーフマラソン／吉野ヶ里ロードレースin神埼市
- 長崎：ジョギングフェスティバルinさざ／五島つばきマラソン／長崎ベイサイドマラソン
- 熊本：苓北町タヤけマラソン／倉岳えびすマラソン／芦北うたせマラソン／島あじマラソン／金栗四三翁マラソン
- 大分：おがた五千石マラソン／八面山平和マラソン／岡の里名水マラソン／別府大分毎日マラソン／諭吉の里「なかつ」ハーフマラソン・ウォーキング／大分国際車いすマラソン
- 宮崎：延岡西日本マラソン／えびの京町温泉マラソン／青島太平洋マラソン／宮崎シーガイアジョギング・ユニファイド
- 鹿児島：佐多岬マラソン／鹿児島マラソン／あくねボンタンロードレース／新茶・大野岳マラソンinえい／喜界島マラソン
- 沖縄：いとまん平和マラソン／石垣島マラソン

デジタルマップづくりへのご意見、お問い合わせは
info@runners.or.jp まで



いわて盛岡シティマラソン HP より Imagery © Google, Maxar Technologies / Map data © Google

デジタルマップ採用が「高いハードル」だった理由

多くの大会主催者は、デジタルマップの必要性を感じながらも、実際に採用するにはいくつかのハードルに直面していた。

- 地図制作を外注すると費用がかかる
 - グーグルマップやGIS(電子地図)上で地理空間情報を一体的に処理する仕組みの扱いに慣れていない
 - 交通規制情報はリアル地図にどう入れればいいのか
 - 広報担当者が地図制作の専門家ではない
 - スマホ対応のノウハウがない
- こうした事情から、「やりたいとは思っていたが、手をつけられなかった」という声は少なくない。

ランナーズ財団が作成する地図

そこでランナーズ財団は、各大会からコース情報を受け取り、デジタル版コースマップをつくる取り組みを始めた。主催者側から提供されるコースのデジタルデータや、紙のコース図、交通規制情報などをもとに、財団側でデジタルベースのデジタルマップを作成し、スマホ対応の形に整えるというも

のだ。

このことを大会主催者に案内したところ、デジタルマップの作成に同意する191大会が(9月1日現在)コース情報を提供してくれた(ページ左の一覧参照)。これら大会主催者からは、次のような声が寄せられている。

「以前からやりたいかったが、手が回らなかった。こういう支援は本当にありがたい」「参加者から『スマホで見られる地図が欲しい』と言われていたので、期待している」「交通規制の説明にも使えるので、住民への案内にも役立ちそうだ」「9割が河川敷沿いのコースなので、グーグルマップをつまぐ活用できるか不安もあります。でも取り組みたい」

紙のイラストマップはそのままに、スマホ対応の地図「デジタルマップ」をもう一枚持つ。完成したデジタルマップ情報は無償で主催者に提供する方針だ。

● ランナー、応援者、大会主催者、運営スタッフの皆さん、大会コースマップについてのご意見をお寄せください。公益財団法人ランナーズ財団では、皆さんからのご意見も参考にしながら、大会コースのデジタルマップ整備の支援を続けていきます。

計測なしの大会に 4,500人が集まった！

箱根ランフェス——競技から“体験”へ、ランニングを楽しむもうひとつの「カタチ」



this photo : taken at the previous event



タイム計測を行わないランニングイベント——従来の大会文化から見れば例外的な形式だ。しかし箱根ランフェスは、その例外を単なる話題性ではなく、ひとつの「新しいスポーツイベントモデル」として成立させた。競わないことを前提にし、「歩いてみよう」「地域を楽しむ」「滞在型」「ファンラン中心」を謳う「自由なラン」が、従来のランナーにも新規層にも受け入れられた背景にはなにがあるのか。箱根ランフェス実行委員会・運営事務局のプロデューサー、川杉章（かわすぎあきさ）氏に聞いた。

4割が宿泊した

川杉氏：コロナ明けの2024年にタイム計測なしの形でイベントを再開したところ、1500人が集まりました。その後も参加者が増え、今年2026年には過去最高の4500人の参加者を迎えました。

制限時間5時間、100人ずつの変形ウェーブスタート。給水所では、水はコース上に設置されたタンクから、参加者に配布したコップで補給します。給水用の紙コップはありません。計測がないため、慌ててゴールに帰ってくる必要がなく、参加者はコース上で好きなように遊んでくることができます。

「タイム計測のない大会はあり得ない」のか？

——なぜタイム計測のない大会に、大勢のランナーが集まったのでしょうか？

川杉氏：今年の参加者の内訳を見ると、約6割が女性、しかも20代30代が中心で、他のマラソン大会と明らかに様相が違います。2017年の第1回は参加者数700名で、ほとんどが男性でした。2024年に復活した際、思い切ってタイム計測をなくしたことで、競い合う競技会から、ランニングを楽しむイベントになったのだと思います。

お昼の12時くらいがフィニッシュのピークだったのですが、みなさんその後もう一回の音楽を聴いたりビールを飲んだり、午後3時くらいまで大勢会場に残っていました。観光地で電車の駅もない箱根の会場では、小田原

などからのアクセスを確保するのが大変です。ただでさえ輸送手段が細い上に、観光客が多くて路線バスだけでは間に合わず、シャトルバスを用意したり、抽選会を何回もやって参加者の移動の分散にも注力しました。箱根は首都圏から日帰りできるのがメリットなのですが、できるだけ宿泊してもらって輸送の負担を下げることも考えました。今回は前泊や2泊組も合わせて4割が宿泊、ランフェス以外の箱根も堪能していただきました。

このコースは決して楽なものではありませんので、記録を意識するよりも、ランニングを積極的に楽しむ形があつてほしいです。往復コースで、見知らぬ参加者同士がすれ違いざまに声の掛け合いもしていますし、3割いるリピーターの間では「また箱根で会いましょう」が合言葉になりつつあります。ランフェスを楽しむ文化が醸成されてきたと感じます。

記録証も完走証もありますが、折り返して渡している布製リストバンドが完走の証です。



箱根ランフェス実行委員会
運営事務局 川杉章プロデューサー
(JTBコミュニケーションデザイン)



メイン会場は、芦ノ湖畔のキャンプ場「芦ノ湖キャンプ村」。箱根のグルメや出店店舗のブースが並び、ステージではミュージックライブや抽選会を開催

マイペースで走りながら、コース上の絶景ポイントで足を止め自撮りを楽しむ参加者たち。「この景色を見るために走ってきた!」という声も

予算がない、が
きつかけだった

――箱根ランフェスが誕生し、現在の形になるまでに、どのような経緯があったのでしょうか？

川杉氏：JTBと箱根町の合議に基づき、2017年に第1回の箱根ランフェスを開催、700人を集めスタートしました。ハーフの部の制限時間3時間、計測ありで、参加者はほぼ中高年男性、神奈川県内からの方がほとんどでした。

回を重ねるごとに参加者は増えていきましたが、2020年新型コロナウイルスの感染拡大で中止に。

コロナ明けの2024年、大会復活の際の課題は、赤字を回避し参加者を集めること。資材、人件費の高騰、マラソン不況の影響で予算縮小でしたから、イベント内容を変更して開催することになりました。駐車場なし、2日間開催を1日にし、参加料金を下げ定員1500人、タイム計測なしのファンラン形式に変えたのです。結果、参加

定員も集まり収支もトントン。次に繋げることができました。

――箱根ランフェスで目指すものはなんですか？

川杉氏：「ランフェス」は、景色や食べ物など、走りながら地域を楽しむイベントとして、ここ数年広がってきています。その先駆けの「箱根ランフェス」ランニングをレジャーとして楽しむその本質は、スポーツを軸に、地域に人を呼び込む「スポーツツーリズム」の一形態として捉えています。山の中で記録も出ない。だったらタイムとか制限時間の足枷をはずして、自然の中で楽しくスポーツをする、おいしい空気、キレイな景色を堪能し、こういう体験があるんだ、と気付いてもらう。そしてそのあと食べた飯、飲んだビール、温泉も最高、と。

もちろん一方に記録を狙う競技会としてのマラソン大会があり、サブフォーやサブスリーを狙って走る時はそちらに出場すればいい。レースがランフェスか、という択一じゃない。ただ、ランニング大会はタイム計測が当たり前、という固定観念をはずし、参



加者にも大会開催者にも、選択肢を増やすということです。

自身の仕事のテーマである「スポーツツーリズム」はハードがなくても地域の魅力というコンテンツで人を集め、発信していくもの。訪れてくれる人に長く滞在してもらい、消費を促し、地元の活性化に繋げることが目指しています。

地域に人を呼び
好きになってもらうために

――新形態となった箱根ランフェスに参加者を集めるため、どのような具体的準備を行ってききましたか？

川杉氏：箱根ランフェスには、土地の魅力や富士山ビューというアドバンテージがあるのは確かですが、だからといって何も考えずに運営してもうまくいかないでしょう。参加者アンケートはもちろん、ボランティア、スタッフ、出店者、関係者、各方面から聞き取りをし、問題点の提示を受け、全てに目を通してポイントごとに課題と解決策を取りまとめています。そしてその内容を、イベント終了後2〜3カ月かけて検証。それらを元に、参加者が求めているもの、アクセスのためのバスの運行プラン、スタッフの配置、会場設計など、細かく見直しました。

大手や箱根にゆかりのある企業など様々なパートナーシップをいただいています。協賛の大きさでなく、

地域のイベントとして、ともに箱根ランフェスにエンゲージしてもらおう形です。

芦ノ湖スカイラインも、現在はスポンサーとしての参加ですが、当初はイベント当日の通行止めをお願いするところから始めています。まずは沿道の地権者を回って説得し、そこから町、消防、警察と一つひとつ話をつけていきました。第1回開催時は朝7時から3時間の通行規制を得られ、その後も交渉を続けて、いまは朝10時から15時まで5時間のコース使用が可能となっています。

コース上のレストハウスは、ランフェス当日にドライブ客が来ませんが、ランナー向けの特別営業やメイン会場での出店をお願いし、ランナー相手に販売してもらっています。

――来年に向け、どのような構想がありますか？

川杉氏：2027年の参加者目標は6000人。ただ、今年の段階で会場やコースの収容、輸送のキャパシティが限界を迎えているため、土日2日間開催で人流を分散させることを考えています。フィニッシュ会場での滞留も考慮してタイムテーブルを工夫しますし、2日間連続参加を含め、宿泊プランを設定。ホテルなどと連携し宿泊者が増えることで、行き帰りのバス運行の分散化、負担減にもなると思います。

また、参加者に多様な楽しを提供するという意味では、今年トライアルで行ったトレイルランニングツアー、ロゲイニング、ノルディックウォーキングも、次回は本格展開する予定です。

イベント運営は課題対策の徹底的なコミュニケーション、これに尽きます。200ページに及ぶマニュアルも毎回作成しています。他の自治体の関係者から問い合わせや相談を受けることもありますし、いまあるノウハウを広めていき、それぞれの地域で、地元の魅力を発信する「ランフェス」が活性化できればいいですね。



2026 年大会要項

開催日 2026年4月18日(土)・19日(日)

開催地 神奈川県(足柄下郡箱根町)

会場 芦ノ湖キャンプ村・芦ノ湖スカイライン

主催 箱根ランフェス実行委員会

種目

★18日開催のランプログラム

- ・富士ビューランハーフ(約22Km・制限時間5時間)：7,000円
- ・三国峠ラン(約9Km・制限時間4時間)：5,000円

2種目ともタイム計測、着順による表彰はなし

※地元or学生割引、事前先行エントリー割引あり

※19日開催のランプログラム、ロゲイニングorノルディックウォーキングとのセット販売あり

★19日開催のランプログラム

- ・トレイルツアー(約8km)：2,000円
- ・ノルディックウォーク(湖尻コース、箱根園コース)：2,500円～
- ・ロゲイニング(1チーム/2名～5名)：8,800円/チーム
- ・トレイルランニング体験会(会場周辺コース)：無料

<https://hakone-runfes.com/>



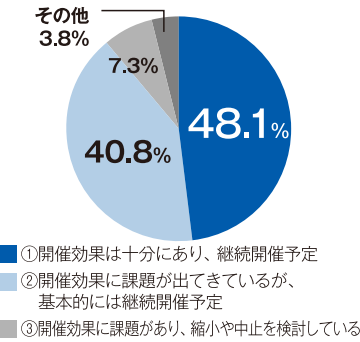


大会開催での現状の課題は何ですか？

走る人を支える役員・ボランティアが
足りない、が突出の73%

ランナーズ財団
大会調査
第1回を実施

グラフ1 大会の開催効果について



設問2で、大会を継続していくにあたり課題になっていることは何

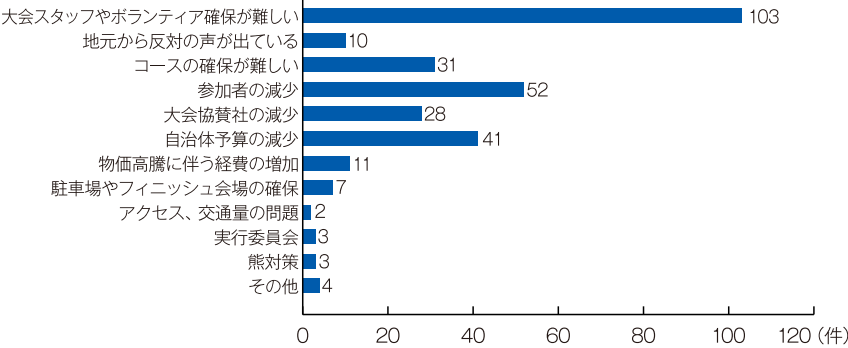
回答者の73%が挙げた
「人手不足」

一方、開催効果に課題があり、縮小や中止の検討をしている大会③が全体の7・3%、21件もあった。

「大会開催効果は十分にあり」が半数、縮小・中止検討が7・3%

公益財団法人ランナーズ財団では、大会の現状の問題点、課題についてアンケートによる調査を実施した。アンケート実施は2026年1月から2月。回答289大会。回答結果、内容は以下であるが、開催効果がありながらも役員、ボランティア不足などの各種課題が、覆い隠せないレベルまで上昇していることをつかがわせる段階に入ったと思われる。

グラフ2 継続開催の課題（複数回答可）



か？を聞いた。複数回答を可とし、「課題あり」と答えた150大会から295件の内容が寄せられた。その中で圧倒的に多かったのは、グラフ2にあるように「大会スタッフやボランティア確保が難しい」という回答。実に全体の約四分の三がこれを挙げていた。課題が「実行委員会」であるという3件も内容としては同じで、「実行委員会メンバーの高齢化、それによる情報共有の遅さ」「大会準備の業務量がありにも多く、負担が重いため誰もやりたがらない」「陸協審判、クラブ員で大会ス

タッフを構成しているが、準備や運営で外部業者の方たちの力を借りる割合が増えている」との回答だった。昨今、高齢化による社会問題がランニング大会にも押し寄せており、人手の確保の課題は年ごとに大きくなっていることが予測される。開催効果とのバランスをどう保ていくかが、どの大会でも問われていきそうだ。

その他の課題については次の通り。

物価高騰に伴う経費の増加

「自治体予算は減少していないが、物価の高騰に伴い財源の確保に苦慮している」

「コロナ後、参加者数は上昇傾向にあったが、想定以上の物価高で2期赤字となった」

「ここまで経費が上がると、開催の費用対効果が見えない」

駐車場やフィニッシュ会場の確保

「500台分を確保しているが、病院駐車場や店舗駐車場に無断で停めているランナーがあり、近隣に迷惑をかけている。思い切って駐車場なしとしたいが、ランナーへのサービ

スとして初回からやっているの

で、なかなか決断できない」

アクセス、交通量の問題

「シャトルバスなど交通量の増加に伴い、渋滞や苦情が問題となっている」

熊対策

「熊対策にも限界があるように思う。コースの変更、猟友会の協力、クマスプレーや盾などの備品配置…」

その他

「地域の小中学校の学校行事として開催しているが、数年後に統合する予定があり、現在の目的のひとつとしている学校間交流の意義がなくなってしまう」

「村への経済効果（特に宿泊）が薄れてきている」

「マラソン大会の目的が観光目的なのか、地元住民のためなのか、不明確になってきている」

「関係団体の環境変化があり、大会継続可否を検討中」

これらの問題、課題は、大小ありながらもどの大会にも共通するものだらう。その中でも以下のように模索をする大会もあった。

「河川敷道路を周回する単調で応援のない設定であるが、現在、次回大会に向けて街中（名所・旧跡）を走るコースを検討している」

「開催してまだ数年の大会。安定的な運営に向け、ひとつひとつ改善しながら進めている」

予算と開催意義 2件

以下の個別回答もあった。

「開催効果は出ているが、縮小・中止も検討される。市からの金銭的補助が打ち切られる予定のため」

「基本的には継続開催の予定。ただし、近年の物価、人件費の高騰や協賛金収入の減少を受け、大会収支の改善が必須であるほか、市民への大会開催意義のわかりやすい発信等が課題となっている」

コースや会場の問題 4件

「開催効果は十分にあり継続開催予定だが、自然保護団体・活動家から開催反対活動が続いている。またコ

ス整備をするために必要なルートが、豪雨により道路崩落、物理的に整備ができなかったため今回は中止とした」

「開催効果はあるが、開催場所の工事に伴い当面の間は休止」

「マラソンコース周辺の工事により、今後数年間、大会が開催できない見込み」

「エントリー数は充足しており開催効果はあると考えるが、今後の課題として、フィニッシュ会場で使用していた場所が新施設建設予定地となったことから、新コースおよび開催可否の検討が必要」

目的達成 1件

「開催効果は十分にあったが、開催の目的を達成したため終了」

単年中止予定 1件

「行政の大きなイベントがあるため、その該当年の開催は中止を検討している」

時期や種目の検討 3件

「開催効果は十分だが、現行の内容で継続していくのが難しくなりつつあるため、種目内容や開催時期の変更を検討している」

「大会を数十回開催する中で、運営、コース、開催時期など様々な課題があり、見直しが必要となって大会の一時休止を決定した。今後、大会再開に向けて協議、検討を進めていく」「開催時期と内容を検討中」

今回の調査ではコロナの顕著な影響を指摘する主催者はなかったが、参加者減はコロナ禍以前から見られ始めており、大会開催の各種課題を主催者だけで解決していくのは難しくなっているようだ。関係者の知見が求められている。



スタートの青梅市役所前。日本初のローリングスタート。歩いてスタート地点に向かう途中でピストルが鳴った



開会式に、ボストンからやってきた役員ゲストが並ぶ



完走証は基本自分で手書き。多くのランナーは役員に“お願い”していた

市民ランニング50年

第3回

50年前の青梅マラソン

1970年代の中盤、ランニングの機運が盛り上がる中で、その恰好の受け皿の大会が1967年に始まっていた青梅報知マラソン大会だ。メイン種目は30km。初回参加者は337人だったが、1974年2956人、75年4087人、76年7813人、77年には1万人を超え急増した。

主催が新聞社であったことから広報に力を込めていた。開催の青梅市も市と市民が一緒になって大会を盛り上げ、コース上にはあちこちで私設のエイドステーションや和太鼓演奏などがあり歓迎した。主催者でもない朝日新聞が翌日の社会面で空撮の写真を掲載するなど、ランニングがブーム化する象徴となっていた。

1976年2月の青梅マラソンは、一段と力強い大会となって開催された。主催の報知新聞社がボストンマラソンと提携し、ボストンマラソンの優勝者ビル・ロジャース選手を招待したのだ。ロジャース選手は当時世界を代表する選手。そうした選手とフツの市民ランナーが走れるというのである。参加人数は倍近くに膨れ上がり、「青梅で走ろう」が市民ランナーの合言葉になっていた。

その青梅も急増する参加者の対応に追われた。当時申し込みは、現金書留での申し込み。郵便局から届いた現金封筒が山になって事務局に積まれていた。担当のおばさんが「もう手が痛くてね」とこぼした。現金封筒は厚い。それをハサミで切って参加料金を確認するのだ、何千通も。

記録も同様だった。人力で計っていたから、上位200人ほどが入る2時間経過の頃には処理が追い付かなくなり、ランナーはゴール手前で並ばされた。2月の青梅は寒い。時間とともにその列は長くなり、数百メートルになった。おまけに完走証は、記録だけでなく名前の欄も空欄。自分で書くのである。

申込や記録処理が順次コンピューター化されていた。それを見ていた私は日本もこのシステムを導入すべきと考え、申込と記録処理のコンピューター化を進めた。計測では青梅マラソンは一時的にビデオ測定などを取り入れ、申込方法も脱・現金書留を試みた。参加人数が1万人を超える大会は他になく、こうした大規模マラソン大会の運営の模索は青梅から始まり、他の大会に広まっていた。(写真と文 橋本治朗・公益財団法人ランナーズ財団会長)



ロジャースとフレミング選手。優勝はロジャース(タイムは1時間33分8秒)、2位はリッカーの沖田選手



ボストン優勝者の美智子ゴーマンさんと並走する山田敬蔵選手



沿道は人で溢れた



折り返し地点も人だかり



千代田走友会のコネリーさん



石沢重信さん。第5回のランナーズ賞受賞者



波多野 斐(あや)さん。第5回大会で女子で最初の30km完走ランナーになった。後年、日本一周を果たしている



1978年にはビデオカメラ判定が導入され、全員が秒単位で計測された



ゴールは待たされた。記録も秒まで計ってくれるのは2時間22分まで。その後は30秒単位



「第 36 回ランナーズ賞」受賞者決定！

公益財団法人ランナーズ財団は、以下の方々への第36回ランナーズ賞の授賞を決定しました。ランナーズ賞は、市民ランニングの普及と発展に貢献してきた個人や団体、また、日々ランニングの新しい世界の発見に努めている人たちを称える賞であり、受賞者には正賞のトロフィーならびに副賞として賞金200万円を贈呈します。1988年の第1回ランナーズ賞以来、今回まで116の個人、団体がランナーズ賞を受賞しました。受賞した三者のコメントをご紹介します。

青梅マラソン



「トップと市民が一緒に走る」を打ち出し現代の市民マラソンの礎を築いた

本大会は1967年に東京オリンピック銅メダリスト「円谷幸吉と走ろう」を合い言葉に市民マラソンの先駆けとして誕生し、半世紀以上にわたって歩んできました。今回の受賞は、その長い歴史の中で支え続けてくださった地域、ボランティア、各関係機関、そしてランナーの皆様のおかげであります。来年度には60回を迎える本大会が、この先も皆様に愛され続ける魅力ある大会となるよう邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

青梅マラソン財団代表理事 齊藤 寛

久保井洋次さん



小さな町の名物大会「みかた残酷マラソン」、ランナーに寄り添う大会づくりを長年続ける

1992年、町からマラソン大会開催の依頼を受け、「百聞は一見にしかず」の思いで「第20回ホノルルマラソン」に参加しました。ゴール後の会場では、延々と喜びの笑顔と涙顔でゴールするランナーが途切れません。それを拍手で待ち続ける運営者たちの姿に感動しました。「完走あつてのマラソン!」「我が町でも感動を!」これからも参加者全員をゴールで待ち、ひとりひとりの感動と喜びの瞬間を迎え続けたいと思います。

みかた残酷マラソン全国大会実行委員長 久保井洋次

国土舘大学 防災・救急救助総合研究所



救護技術と体制整備の両面でマラソン大会の安全確保を牽引

第36回ランナーズ賞という栄誉ある賞をいただき、光栄に存じます。国土舘大学では、20年以上にわたり市民マラソン大会をはじめとするスポーツイベントの救護活動に取り組んでまいりました。今回の受賞は、救急救命士や学生をはじめ、多くの関係者の努力の積み重ねによるものです。

今後も、すべてのランナーが安心して挑戦できる救護体制の構築と普及に努めてまいります。

国土舘大学 防災・救急救助総合研究所所長 田中秀治

2025 年にランナーズ賞受賞の
サロマ湖 100km ウルトラマラソン
受賞記念碑をフィニッシュ会場に設置



昨年の授賞式以降に製作をスタートし、今年2026年の大会（6月28日開催）前に完成した「第35回ランナーズ賞受賞記念碑」。閉会式とフェアウェルパーティを行う北見市常呂町スポーツセンター・百年広場に設置され、走り終わった多くのランナーたちがこの新しいスポットで完走記念写真を撮っていました。
※ランナーズ賞を受賞した大会への副賞は、賞金200万円相当の記念碑の授与となります。

HOT NEWS

ランニングを明確に打ち出した新規 Park-PFI はあるか？ 「スポーツ・健康・運動公園 × 民間活力」案件 最新情報

都市公園の整備・運営に民間活力を導入する Park-PFI（公募設置管理制度）は、2017 年の都市公園法改正によって創設されて以来、飲食・物販・文化交流施設など「滞在価値」を高める案件が中心だった。しかし近年、自治体側の期待は少しずつ変化している。住民の健康増進、そのための運動機会の提供、ウェルネス産業の育成——公園を“地域の健康拠点”として捉える視点が広がりつつあるからだ。ランニング文化にとっても、この潮流は見逃せない。



岡山市の北長瀬未来ふれあい総合公園で行われている「おかやま健活スクール」

直近の事例を振り返れば、ランナーズ財団NEWS2号でも紹介した都立明治公園のランナー拠点整備、代々木公園の利便増進施設、岡山市「北長瀬未来ふれあい総合公園」のウェルネス複合施設など、ランニングや健康行動に直結する案件がいくつか登場している。いずれも公園の“使われ方”を変える象徴的な取り組みであり、民間事業者

が“官”のスポーツ・健康領域に踏み込む余地を示した。

こうした流れを踏まえると、次のステップとして注目したいのが、各地で進む「前段階の熟」だ。福島県鏡石町・鳥見山公園では、今年6月、総合運動公園を対象にPark-PFI・指定管理者制度の可能性を探るサウンディング（民間事業者との対話）を実施。東京都町田市・忠生スポーツ公園でも、設計・整備・運営を一体で検討する官民対話が進んでいる。国分寺市のスポーツセンター再編、国交省の官民対話プログラムに含まれるスポーツ公園系案件など、運動公園×民間活力の“予兆”は各地で積み上がっている。

公園が環境保全や文化活動の場として機能しつつ、そこに「健康」「スポーツ」「地域交流」といった要素が重なるのであれば、ランニングイベントや健康づくりプログラムはその延長線上で高い親和性を持つ。自治体が求めているのは、単なるシャワー施設運営やイベント代行ではなく、ランニングを軸に地域の健康価値・交流価値を創出できる事業者だ。

国交省ガイドラインや Park-PFI ポータルを進捗を注視しつつ、ランニング事業者はこの新しい潮流に備えておきたい。

参考 URL

Park-PFI 推進支援ネットワーク PPnet ▶ <https://park-pfi.com/>
国土交通省 関連ページ ▶ <https://www.mlit.go.jp/toshi/park/>



公益財団法人
ランナーズ財団

会長
橋本治朗

理事長
野平 修（公益財団法人ランナーズ財団）

理事
増田明美（スポーツジャーナリスト）
福田六花（医学博士、ミュージシャン）
安達知希（株式会社電通）
船津智成（公益財団法人ランナーズ財団）

評議員

前河洋一（新潟食料農業大学 教授・陸上競技部 監督）
喜吉 憲（キヨシアンドパートナーズ株式会社 取締役）
小川孔輔（法政大学 名誉教授）
築留康夫（弁護士：西村あさひ法律事務所）

監事

中田昭弘（公認会計士）

名誉理事長

下条由紀子（初代月刊ランナーズ編集長）

ランナーズ財団 NEWS 第 4 号 2026 年 9 月 18 日発行
発行者 公益財団法人ランナーズ財団 〒106-0032 東京都港区六本木 6-15-1 けやき坂テラス
印刷所 新星社西川印刷株式会社

© RUNNERS FOUNDATION, All Rights Reserved.

海外



47,000 人が4日間歩く「世界一のウォーキング大会」 ナイメーヘン国際フォーデイズマーチ

ランナーズ財団メンバーが歩いてきました！
熱気・興奮・圧巻・感動の 4 日間、
動画レポートでお届けします！

